国　語　科

I　古典「漢文」学習指導の試案

学習の態度・評価に即した入門期の指導

鈴　木　洋　一　郎

1.　まえがき

漢文教育の目標は新しい学習指導要領の古典1甲および1乙の中に明記され，その最後の部分が現行のに比べてわかりやすくなっている。しかしこの目標を教師が理解し，生徒にもまた十分に意識させ指導しておるかという点については，後述の生徒のアンケートにあるように反省させられるものがある。即ちこの目標を達成しまたは徹底するには余りに指導の現場に問題が多いのである。嘗てこの新指導要領を作成する過程において委員間にも「古典必修」の問題について漢文の置かれている位置から反対論などがあり相当な協議を重ねた仄聞しているし，現に日本の古典とし副次的—古文に対して時間数の少なさなど—な漢文教育の重要性を強調するのは一部の識者（学者が殆どであるが）群であって，高校教育の国語科においても定着するに至らず，訓読法などにも問題があり書き下し文による学習指導も考えられている。結局漢文教育の在り方について確然として新しい方向を提唱しようとする努力は十分なされていないと言ってもよい。このようにいろいろと歴史的にも，また現実的にも問題は多く，この点については前号の紀要16集の中で，戦後教育の経過と反省や漢文教育の問題点という見出しで論じたのでここでは省略したい。

2.　本　　論

アンケートによる学習意識・指導の効果と反省

漢文の授業は，教材への親しみにくさ—漢字および文体・内容—や生徒の関心度の低さなどから，一方的に進行し，殆ど質問などは出ないのが常である。そして教師には生徒の学習態度を理解し，彼らが意欲的に教材に立ち向えるよう助言・指導する余裕も乏しい。このように現代国語などの授業と比べると教師・生徒間のへだたりは多くなってしまう現状において，生徒が漢文に対してどのような態度をとって来たか，またどのような意識を以って臨んでいるか，そしてどのような結果（評価）が生じまた期待されるかということを再検討する必要がある。この入門期における最も基礎的な三つの要素即ち態度・意識・評価について確かの，新しい指導試案を作ろうとし，これはその調査結果の報告である。時期は入門期の高2の第一学期末を選んで行ない，評価の項目では，問題形式にして誤答数の多いものを学習困難なものと考えて指導上に反省を加えながらその原因を追求しようとした。

以下その調査を表にまとめたものである。

□ の数字はその項で最も多いものを示す

		1	2	3	4	5	（望ましい順に 1，2 ……）
(一) 態度	1.　中学時の漢文知識（既知の詩文）	「春望」最も多い 102					矛盾，蛇足五十歩百歩，推敲など春眠不覚暁の詩も若干
	2.　漢文への好悪	6	36	(46)	6	21	好悪に従って 5 4 (3) 2 1
	4.　予習の態度	9		57	(69)		やる　普通　(やらない)
	資料の有無	21	(69)	96		12	参考書　(ガイド)　辞書　無
	5.　ノートの利用	12	(108)	84		12	予習　(授業)　白文　教科書へ
	6.　漢字　六書	24	(72)	39			例字も知る　(知らぬ)　空らん
	新旧字体	知っている					
	当用漢字数	(99)	33	3			(知っている)　2300字　3000字

(二) 意識	1. 辞書の利用	6	(78)	15		利用	(時々) 利用せず
	2. 当用漢字への学力	3	(84)	48		あり	(普通) 不安
	3. 難字の処理	(66)	24	21	3	(辞書) ガイド	友達 そのまま
	4. 漢文調の練習効果	15	48	(59)	27	あり	普通 (余りない) ない
	5. 白文朗読の効果	(75)	27			(あり)	訓読文の方よい
	書写の効果	(69)	33			(構造・訓点法わかる)	訓読文でよい
	6. 漢文法の説明	84				入門当初，後，反復練習	
		60				文の読みと併行してせよ	
	英文法との比較	(78)	21	18	12	(今のまま)	更に望む 不必要 独自にせよ

3. 学習の結果評価については次のような問題を調査の中に入れた。

1. 訓点法の誤答を考えるために

A 訓点とは何ですか，正確に知っているものを全部書き出せ。

B 訓点についてあとの用例(B)をみてどういう点がむずかしいか指摘せよ。

C 次の白文用例（C，D，E）に訓点をつけた場合，そのどれが正しいか符号で答えよ。

用例

(B) 太宰嚭、譖子胥恥謀不用怨望

(1) 他山之石可以攻玉

ア 他山之石可以攻玉
イ 他山之石可以攻玉
ウ 他山之石可以攻玉
エ 他山之石可以攻玉

(2) 学者須是務実

ア 学者須是務実
イ 学者須是務実
ウ 学者須是務実
エ 学者須是務実

(3) 不患人不己知患不知人也

ア 不患人不己知患不知人也
イ 不患人不己知患不知人也
ウ 不患人不己知患不知人也

2. 漢文法の理解を確かめるために

A 漢文の構造と用例　漢文の構造は次の五つの基本型から成立しているが，この構造と日本語の場合とを比較して同じが同じでないかを答えよ。またその場合あとにどの用例に基づいているかその用例の記号で答えよ。それぞれ型に2つの用例が考えられる

1. 主語　述語の関係は	日本語と比べて	ア．同じ	イ．同じでない
2. 主述の下に目的語，補語をとる場合	〃	ア．〃	イ．〃
3. 助字（例，否定ず可否べし比況ごとし）	〃	ア．〃	イ．〃
4. 並列の場合は	〃	ア．〃	イ．〃
5. 修飾，被修飾の場合は	〃	ア．〃	イ．〃

上の1～5の例として，次の語はどれにあたるか，記号で答えよ。

ア．開会　イ．未然　ウ．教育　エ．博愛　オ．非常　カ．雷鳴　キ．登山
ク．国定　ケ．暖流　コ．売買

B 漢文には国語と同じように，いろいろな語法がある。例えば，受身・使役・疑問・比較などがあるが，あとの例文からそれにあてはまるものを選び，記号で答えよ。

A 受身には 受身特定の語を用いてつくる場合と …… A_1
文脈の上から受身の意味をもつ場合と …… A_2 がある

B 使役にも受身と同様特定の語 …… B_1 と文脈上からわかる …… B_2 とがある

C 疑問には文初に疑問詞がある場合 …… C_1 と文の終りにある語でわかる …… C_2

D 比較にも形容詞的語の次に独特の語をおいてあらわす。

例文

ア．太公曰「義士也」扶而去之　（扶＝助）
イ．霜葉紅於二月花
ウ．信而見疑忠而被謗　（謗そしる）
エ．夫差，而忘越人之殺而父邪　（而＝汝）（夫差・人名）
オ．夕貶潮州路八千　（貶……罪人として遠流，潮州は地名）
カ．天帝使我長百獲
キ．何前倨而後恭也　（倨おごる）

アンケートの結果から

1. 訓点法の誤答を考えるために

C について

	ア	イ	ウ	エ	誤　答
(1)	0	75	39	21	レに慣れない
(2)	24	18	3	84	述語の意味不明
(3)	9	108	3	0	一二三の理解不十分

なお前項のBについて訓点上の困難さを指摘すると

レ（一とレの組み合わせ）の理解ができない
最初に読む字の発見がむずかしい
一行より行かわり長文となると読みにくい
訓点が多いと混乱してしまう
まだ読む順序に慣れない
文のつなぎがぼろぼろになって字と字に距離があって間違いやすい

などの生徒の説明が付加される。またこの後に調査した訓読における困難さの順序については

漢文の読み方についてそのむずかしさを順序に並べると次のどれか。

ア．漢字　漢文口調　訓点
イ．漢文口調　訓点　漢字
ウ．訓点　漢字　漢文口調
エ．漢文　口調漢字　詞点
オ．漢字　訓点　漢文口調
カ．訓点　漢文口調　漢字

順位	ウ	ア	オ	カ	エ	イ
数	36	27	24	18	12	9

これから考えると漢字や訓点の困難即ち漢文の形式視覚的なもの語法的なものが第一の障害となっていることがわかる。

2. 漢文法の理解については

A

	1	2	3	4	5
ア	121	10	15	123	111
イ	14	125	120	12	24
用例数	カ 123	ア 98	イ 131	ウ 97	エ 133
	ク 130	キ 125	オ 114	コ 132	ケ 133

文法の基本的な知識は用例に基づいて大体理解していると見てよい。しかしこの法則が短文から長文になり，訓点法に従って読むときには一挙に困難となってくるところに指導上の問題点がある。

B

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
1	A 9		A 120	C 129	A 6	B 114	C 123
2	A 21	B 9	A 15	B 6	A 125	B 15	B 6
	B 105	D 124			B 24		C 6

調査の例文はいずれも教科書の例文やテキスト「漢文入門」の中から抜き出したもので，授業中に説明をしておいたものである。調査の結果からは文脈の理解に立って読むことはたとえそれが短文であれ，その構文が説明があった場合でも困難な作業であることがわかる。例文の「ア」や「オ」に誤答が30もあった。

受身・使役・疑問とそれぞれの語が書かれてある場合は文法の知識があれば自然と誤答の少ないのは当然であるが，やはり読みの練習と指導の際に注意を喚起しなければ簡単に誤りを犯してしまうのである。

最後に生徒が漢文をどのように意識しているか，既

述の表に書かれていない部分について述べる。漢文体の長所として，簡明な口調，リズム感，否定，疑問などの意味がすぐわかる。固さ，激しい男性的な調子で読み慣れると都合がよいと述べているのに対し，短所としては，読みにくいし意味の把握も困難で，時制が不明で感情の直接流露には欠けるところがあるが，唐詩や故事成語の文には興味がひかれると述べたものが多数いたことも注目しなければならない。

また**漢文学習の意義**については，入門期のため十分にその目標は確立されていないで未記入のものが過半数を占めた。しかし記入した**生徒の考え**ていたところを要約すると次の3点になる。

1. 漢字に慣れ，言語生活におけるその意義を知り，語彙が豊富になり，国語愛が生ずる。
2. 古代中国の文化，社会思想を理解し，短い故事成語や聖賢の文に生活の教訓を見出しうる。
3. 東洋精神を含む一般教養を身につけ日本文化を再認識し将来の文化の在り方を考える。

3. むすび

生徒の調査結果に基づいて指導法の一工夫を試みたが，資料の分析が十分でなかった。しかし今度の調査により判明したことは生徒は指導によって漢文学習の意識が意外に高かったと自負している。白文などを積極的に読んだことはその一例であった。本校では文語や文法に一通り慣れた高2から漢文の授業を始めているが，高1の現代国語の教材にまた補助テキストなどにも明治以後の漢文調の文章に多く接する機会があれば，漢文朗読を効果あらしめることができると思う。またわかり易い唐詩などで漢文への興味を喚起させるところに入門期指導の端緒が開けることを念ずるのである。この唐詩の現行教材の分析，配置，そして新教材の発見とその指導法の研究など年来の課題であったが，未完であるので，次年度に研究を深めて発表したい。